

平成20年度 第3回豊田市生涯学習審議会 会議録

【日 時】 平成21年3月10日(火) 午後2時～午後4時

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 久米昭次郎(市民公募委員)
甲村敬司(青少年健全育成推進協議会)
斉藤秀平(名古屋商科大学教授)
田中清恵(活動団体 子育てネットワークの会ふじおか)
鈴木八枝子(交流館長代表)
藤嶋正美(学識経験者)
福島紀美(学識経験者)
牧野 篤(東京大学大学院教授)
松元秀喜(交流館活動団体)
森 睦(豊田市区長会)
吉田允昭(学識経験者)
(事務局) 村山志郎(社会部長) 田口厚志(生涯学習課長)
中根裕之(生涯学習課係長) 竹内未帆(生涯学習課主査)
(欠席) 釘宮順子(市民活動団体 フリースペースK代表)
清水智子(交流館活動団体 小学校読み聞かせサークル)
松浦 崇(市民公募委員)
山中裕二(小中校長会)

【次 第】 1 あいさつ

2 議 事

- (1) 生活文化(人の暮らしぶり)に着目した過疎調査について(報告)
- (2) 『交流館における図書機能の充実』について(報告)
- (3) 豊田市生涯学習行政の課題事項について(意見交換)

【議事の摘要】

(1) 生活文化(人の暮らしぶり)に着目した過疎調査について(報告)

事 務 局・牧野委員: 資料をもとに説明。

会 長: 自治振興課と生涯学習課との役割分担については?

委 員: 同じ社会部なので、共同でやっていただければと思っています。

事 務 局: 今年度、合併以来抱えてきた課題について、コンサルタント会社と東京大学大学院との2つの調査を行いました。東京大学大学院の調査報告にあるモデル事業の提案については、平成21年度に牧野先生たちに実験的に検討していただく予定です。これに並行して交流館の課題も考えており、できれば、22年度に事業化したいと考えています。

委 員: 限界集落について調査されていますが、小さな集落はいくつくらいありますか。

事 務 局: 新聞等では、限界集落との用語が出てきますが、市では、人口100人未満かつ高齢化率50%以上の集落について、小規模高齢化集落と言っています。

委 員: 調査は、地元の方にお集まりいただく中にこちらもお伺いしてお話を伺ったので、

集落そのものには足を運んでいません。こども園の保護者の会、JC青年部、町村部、議員経験者などに話を聞くと、この問題が出るので、調査報告にはその旨入れてあります。

(2)『交流館における図書機能の充実』について(報告)

事務局：資料に基づき説明。

会長：高橋交流館でも学生や大人がよく交流館図書室を利用しているのを見かけるので、提案自体はよいと思いますが、これを全て職員がやるのでは大変なことではないかと懸念します。

委員：子どもの読み聞かせ活動をしている指導者の方々を中心に子育てサポーターなどの協力を得ながら、交流館の事業として、読書相談事業を立ち上げて、新しい図書コーナーをみなさんたちと共につくっていかうと考えています。

委員：もともと交流館図書の見直しの調査を手がけた頃は、学校の図書室に図書館司書という職員が増設されるという見込みであって、学校と交流館の連携をテーマにしましたが、予算の関係で、1学校に1人の司書を置くことはできず、現在、1人の学校図書館司書は4～5校掛け持ちしている状況で、図書館司書は地域連携を行っていきけるだけの余裕はないというのが実情です。学校図書館司書が力量を高めるとするのは時を待った方が良さだろろうと思います。今回は、交流館が先行して地域から学校図書館との連携をはかっていくものですが、最終的には、ボランティアの関わりなど、まだまだ課題はあるでしょう。

委員：事業をやりながら地域の方たちと、地域の人にとって何が必要かを考えながら、地域の読書指導者の方々の力をお借りして、やっていかうと思います。

会長：展望を持ち、事業を進めていく姿勢は良いと思います。

委員：大変よい試行だと思います。こういうものをやるときに、交流館の中に、委員会を作って、意見を聞きながら、委員会に託してやると、交流館職員の方々も気が楽に進むのではないかと思います。

委員：交流館としてもそういう人が育つと、職員の力量が浅い方もいるので助かると思います。

(3)豊田市生涯学習行政の課題事項について(意見交換)

事務局：資料をもとに説明。

委員：地域講師名簿の活用の度合いは、交流館によって差があります。私は、女川はてなの会という活動を5年ほどやっています。はてなの会は、地域の高齢者の方々が学校や交流館で、昔遊びやものづくりなどを教えるという活動をしています。もとは、交流館が事務局をやっていたのを自分たちで事務局を持つようになって、失敗も経験しました。会のメンバーには高齢の方が多いので、自分たちだけで何かをしようとするのは、難しいと思いますが、会で皆をバックアップして

場を作っていくと、皆少しずつやりたくなっていく様子が見て取れます。今年は、私もボランティア連絡協議会など、外に向けて営業活動を行っています。学校や交流館でも活動していますし、出前の講座依頼も受けるようになりました。

委員：地域講師制度では、講師が交流館に登録されただけで、需要と供給のバランスが整わなかったように感じています。交流館では地域講師の活用は定着してきましたが、他の部分ではうまく進んでいないと思います。

委員：はてなの会の運営で工夫していることですが、会の方々に自分の得意分野以外のものに取り組んでもらって、得意なことを増やしていってもらおうようにしています。皆、得意なこと以外に進んで取り組みませんが、講習の機会を多くとって、講師ができる分野を増やしていくようにしています。

委員：講師登録は、20世紀の後半から流行しましたが、講師登録してから次が一番大事で、3人でも4人でもモデル講座をやってみる必要があります。講師が試行錯誤し、失敗から学んで、講師の力量を積むための仕組みが必要だと思います。

委員：交流館でも、名簿登録された中で講師の声がかかるのは一部の人だけで、講師依頼がない方からの苦言をいただくことがありました。

会長：講師登録の一覧など、見せるものはできているが、利用する人が少なく、それが問題だと感じています。

委員：総合学習の講師依頼が、交流館を通じて来るが、学校の方が持っている資料は過去の内容なので、学校と交流館との連携は取れているかと疑問に感じるときがあります。

委員：私どもの地元の小学校では、凧作りや竹工作などを子どもに指導をされている方が地域の中において、自治区でも年に1回、世代交流イベントのときに小学生に凧を作らせて、市の凧揚げ大会に参加していただきました。地域の様々なイベントの中で、お年寄りの方々のお手伝いは結構活発にやっただけだと思っています。各種団体が行事を行う場合に困っているのは、会場料のことで、コミュニティ会議では交流館は会場を無料で借りられるが、場所が自治区になると、自治区の会館などは会費をとる場合があります。

委員：地域により、コミュニティ会議の構成はいろいろだと思うが、スポーツ、青少年、福祉、環境などの委員会があり、交流館祭や新成人を祝う会について、コミュニティ会議が主催をするということで実施しています。スポーツ委員会では、小学生から大人まで数キロ歩く企画をしてチラシを配ると、200名程度の集客がある場合もあります。成人の人でも土日なら参加をしてくれるのかなと思います。福祉委員会だと、高齢者のデイサービスなど、月1回の調理など、交流館を拠点にしたサービスを行っています。

私は家下川の浄化を手がけて3年になりますが、子どもたちが入れる川にしたいと、市の河川課・清掃管理課や、愛知県などとも絡んで一緒にやってきました。防災関係をはじめ、交流館を拠点にして動いている地域団体が多いと思います。

委員：川の浄化活動について、市の窓口はどこですか。

事務局：地域にはさまざまなニーズが潜在的にありますので、そういう相談窓口は社会部をお願いします。今、サービスを供給したいといってくれる人もいますが、需要と供給とがうまくつながっていきません。社会的な企業が必要で、行政もこれに関わってやっていかなければならないと思います。交流館の果たす機能の中では、つなぐ機能を深めなければなりません。公的にもつなぎ役が必要で、それが支所だと思っています。支所が地域会議の事務局として絡んで、全体の仕組みの持続性を担保することで、交流館に現場・つなぎをうまくやって欲しいと思うし、情報提供のしくみをつくりあげることが大事だと思っています。

委員：初めは営業マンがいると思いますが、軌道にのれば添える程度にとどまると思います。今、国の事業として、放課後子どもプランや地域との連携、学校支援地域本部事業など、最初の部分の支援を行っています。

委員：地域講師活動の中で、高齢者の方々を巻き込んだ事業を行おうとするとき、企画・運営の支援は必要だと思っています。

委員：交流館の中にいると、地域の方々が力をつけてきたことを肌で感じます。その中で交流館主事がやれることというのは、市がキーワードで示したことに對して、かなり時間をかけて練りこんだ事業を組み立てることで、そうしていると地域の需要と交流館からの供給のバランスがとれなくなって来ているのだと思います。地域ができるものと、主事がやるものとの2つの仕組みができるといいなと思っています。交流館でも市民の方の自主企画応援講座などもやっていますが、地域の方々の活かし方をもっと考えられるといいと思います。

ただし、交流館が営利活動を禁じられているために、受講料の徴収で問題になったり、いろいろと課題はあります。

委員：課題はコーディネーターや仕掛人を交流館の周りにどう組織するかだと思います。地域講師については、講師活動をやってきた実践者が、これまでの5年間の成果について、その価値だとか必要性だとかをその成果を認識するようなイベントを楽しいしかけでやってみても良いのではないかと思います。

会長：一度、地域講師については、作っただけに終わらせないために、振り返りをやらないといけないと思います。

事務局：21年4月から、ものづくりサポートセンターを立ち上げ、60名程度のサポーターの情報交換ができる場ができます。情報の提供、場の提供を考えたら、出会いの場を組織する必要があると認識しています。

委員：交流館の人集めは大変です。推薦される人も、定年後は意外と自由ではなく、女性も、共稼ぎでかなりの人が忙しいという状況で、参加は思うようにならないという人が多くいらっしゃいます。自治区の女性部の役員の選考も難儀していて、参加する人としらない人とで層ができています。

委員：青少年健全育成推進協議会の活動の拠点は交流館となっていますが、合併した町村部では、支所が仕切っているケースが多く、温度差はかなりあります。交流館と支所の機能は違うので、もう少し整理が必要だと思っています。

事務局：現段階では、旧町村部とは事情がかなり違っていています。来年は25の交流館の全部が文化振興財団の指定管理になり、支所の関与が薄まります。交流館の職員のスキルを高めるには、やりやすい形となります。

委員：藤岡は第2中学校ができる関係で、もう一つ交流館ができるのではないかと考えています。今の交流館は飯野にあるので遠いと感じている方が多く、小学校高学年から中学校の子どもたちは交流館よりもむしろ、南部児童館で遊んでいます。子どもの居場所というのが必要だと思います。

事務局：藤岡の第2交流館は、南部児童館など、既存施設の活用も含め検討していきませんが、最終的には、整備内容などについて、地元の意見を聞きながら進めていきます。

委員：交流館図書室の見直しに関連してですが、今、世の中の格差が開く中で、子どもたちの貧困が社会問題化しており、豊田市もその例外ではありません。アメリカの研究で、幼いころから本に触れているとそんなに落ちていかないということがわかっています。先の長い話ではありますが、ブックスタート事業のように、子どもたちを幼い頃から本など知的なものにふれさせることを施策的に取り組むのは良いと思います。

委員：交流館そのものが人を育てるという点では、長いスパンで物を考える必要があります。今、学生の就職などでは、そのときそのときという話になってしまうのですが、長い目線で人を育てることが必要だと思います。

例えば、交流館において40代50代のお母さん向けの農業講座というものもうけるかもしれません。そのくらいの方たちは、農業のことは気にかかっているのだけれども、自分のお姑さんから農業のことを教えてもらおうと、教えてもらいたい以上にいろいろと実践させられてしまうから、家から離れて全く別の場所の交流館などで少し教えてもらう形がありがたい、という声を聞くことがあります。他の人に見える形として、講座をしながら、地域の人を育てるとするのが大事だと思います。

さきほど、地域講師名簿の話が出ましたが、交流館だけが講座を提供するのではなく、気楽に参加し、発展できるしかけが必要だと思います。一人ひとりを仕掛け人に育てる必要があると思います。

会長：少し前の話になりますが、社会教育委員連絡協議会の全国大会の感想について、お願いします。

委員：昨年の10月に全国大会に参加してきました。地域は違っても、人を育てる人たちの集まりに熱いものを感じました。行ったところでネットワークもでき、いいつながりができました。一步一步地道な活動で、成果を育て、地域の活性化につながることを改めて感じました。

委員：今年度、最終回ということで、今後の課題について全員の方からご意見をいただきました。労働時間短縮の世の流れの中で、個人の時間が取れるようになってきました。交流館や集落でみなさんの出てくる場をつくっていただき、安全・安

心で、生きがいのもてる、充実した暮らしができる豊田市を願います。

事務局：毎回、活発なご意見をいただきありがとうございました。ご意見いただいたものに全て解決ができたわけではありません。まだまだ今後の課題として残っているものと認識しています。今後の課題についても示唆に富んだご意見をありがとうございました。各委員のみなさんにおかれましては、2年間の任期の中、貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。

審議終了 -